

Oral Science

松戸歯学部 of 教育ビジョン

歯科医師は虫歯を治療するだけでなく、
口腔の健康を通じて全身の健康を支えるために、ますます重要となってきます。
松戸歯学部は歯科医学を「オーラルサイエンス(口腔科学)」と捉え、
医学の一分科としての教育を行っています。

がん予防

唾液には発がん性を減少させる物質も含まれています。清潔で健やかな口腔環境を保つことは、がんの予防にも大切です。

感染予防

口はからだの入口です。口腔の清潔が肺炎などの感染予防にとっても役立ちます。

脳の活性化

噛むことは脳の活動を活発にします。自分の歯で噛めることが認知症の予防にもつながります。

豊かな表情

美しい歯は輝く笑顔の主役です。健康な口は豊かな表情をつくれます。



オーラルサイエンス (口腔科学)

口臭予防

さわやかな息は、やさしいエチケット。歯周病や内臓疾患などでは病的口臭が現れます。

体力向上

しっかりと噛むことは歯やあごの発育だけでなく、丈夫なからだづくりの基本です。

消化促進

よく噛んで食べると、食べ物と唾液がよく混ざり消化吸収を助けます。そして、胃腸の負担も軽くなります。

3 松戸歯学部 の 特 長

point

1 付属病院と連携した 実践的な臨床実習

指導医、患者さん、医療スタッフと関わりながら診療に参加します。付属病院での実習を通じて、知識・技術だけでなく、柔軟なコミュニケーションスキルを身に付けることができます。実習の舞台となる付属病院は、歯科大学付属病院として電子カルテを国内初導入し、様々な最新検査機器を備え、複雑化・多様化する医療ニーズに対応したスキルを身に付け即戦力となる歯科医師を育成します。

全国でも来院患者数トップクラスの 付属病院

来院患者数年間25万人以上、1日約900人、年間入院患者数約5,000人と、全国の歯学部付属病院でもトップクラスの来院患者数を有しています。5年次からの臨床実習では、この多くの患者さんのご協力により豊富な臨床経験を積むことができます。歯科医師臨床研修では、歯科医師免許取得後の1年間を大学付属病院などで研修歯科医として過ごしますが、当病院では約80人の歯科医師臨床研修医の受け入れ体制を整えています。

患者さんを中心とした 医療環境

地上4階、地下1階の付属病院棟には、歯科治療用ユニット183台、ベッド数31床を備えています。パティオを中心に22診療科(歯科18科、医科4科)を機能的に配置し、患者さんを中心とした構造になっています。また、最新の歯科用CBCT、MRI、血管造影装置など、あらゆる角度からの確な診断を可能とする設備を有し、歯学部付属病院として国内初の電子カルテシステムを導入するなど充実した医療環境を整えています。

地域歯科医療の 中核を担う付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院は、臨床実習の場であると同時に地域歯科医療の中核を担い、口腔の健康は全身の健康を支える「オーラルサイエンス(口腔科学)」の理念のもと、新たな歯科医療の分野に挑戦を続けています。そして複雑・多様化する医療ニーズに対応するために、最新の設備で大学付属病院として高度な医療に貢献する一方、地域に根ざした取り組みを積極的に行っています。

付属病院の診療科紹介

■診療部門

【歯科】

放射線科/臨床検査科/病理診断科/総合歯科診療科/歯科疾患予防管理科/口腔機能維持管理科/健康増進歯科/医療連携科/保存科/補綴科/歯周科/小児歯科/矯正歯科/特殊歯科/口腔外科/麻酔・全身管理科/口腔インプラント科/顎関節・咬合科

【医科】

内科/脳神経外科/頭頸部外科/耳鼻咽喉科

■医療情報部門

情報管理科/医療情報システム管理科



point

2 「医療行動科学」で プロ意識を修得

教育理念である「対人関係能力や医療人としての人格を備えた全人的な歯科医師を育成」の観点から、1～4年次にわたり「医療行動科学1～4」を設置しています。患者さんの声に耳を傾け、その思いをくみ取って適切な説明・治療ができるよう、講義や実習を通して患者心理の理解を深め、プロフェッショナリズムを修得します。



point

3 教職員が一丸となった きめ細やかな学修支援

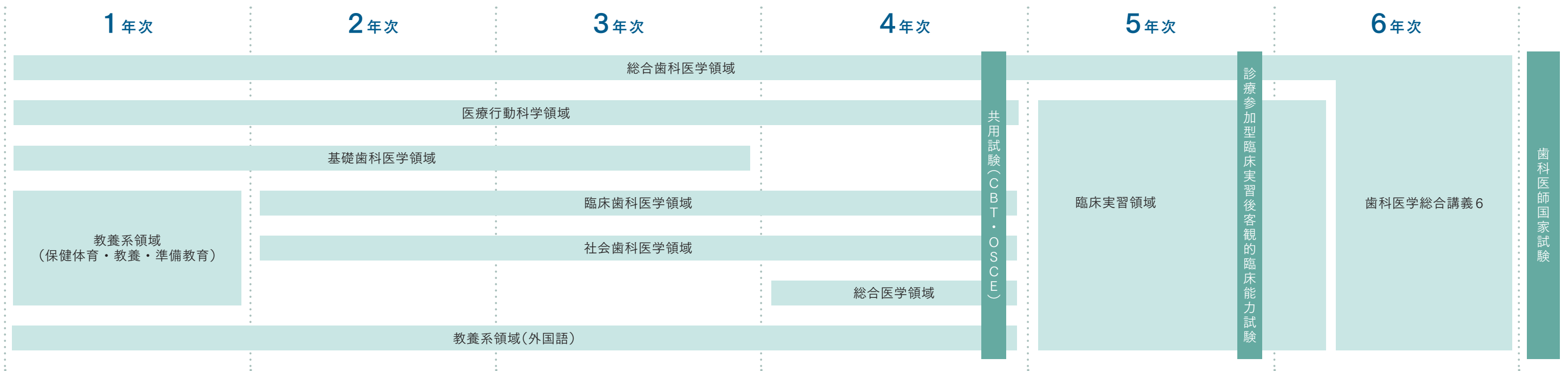
各学年に配置された学修サポート委員と学年担任が、学生や保証人との面談を定期的に行い、成績の状況に応じて学修方法や弱点補強のための工夫など適切なアドバイスを学生一人ひとりに行います。特に上級学年になると、5年次では臨床実習への対応、6年次では歯科医師国家試験のために、それぞれ10～12名程度の班に2～3名の教員を配置し、臨床実習へのアドバイスや歯科医師国家試験に向けての知識統合の助言など、きめ細やかな学修支援を行います。



6年間のカリキュラム

全人的な歯科医師を育成する教育システム

基礎歯科医学と基礎医学の「学問体系別講義」と、1つのテーマに様々な専門分野の教員がアプローチする「統合型講義」を連携させた総合的な教育体制を敷いています。また、各学年で段階的に知識や技術を修得できる「歯科医学総合講義」を設置し、一人ひとりの学修到達度を確認しながら効率的に学修を進めることができる独自の「歯科医学教育システム」を確立しています。



領域概要

教養系領域(保健体育・教養・外国語・準備教育)

歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設けました。日本大学全学共通教育科目「自主創造の基礎」、「日本を考える」では、大学での学びやこれからの生き方において必要な日本大学教育憲章に示す基礎的素養を学生個々が身に付けることを主眼としています。また、実社会との関連から教養を学ぶ意義への理解や自身の専門分野を学ぶ意識を高め、以後受講する科目等の成果の充実に寄与するものとなります。準備教育科目の「物理学」、「生命科学」、「数学」においては、基礎歯科医学との関連性を重視した学修指導を行っています。保健体育科目では、歯科医師として心と身体の健康を管理できる能力を育成し、身体機能の維持・増進に加え、社会性の体得と自律した確かな人間性を高めていきます。

総合歯科医学領域

複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的な歯科医師を育成することを目的としています。



基礎歯科医学領域

歯科医師になるためには、人体の構造とその詳細、人体の各部分の機能を十分に理解する必要があります。さらに、病気の原因や治療に用いる薬の作用なども十分に理解しておく必要があります。このような医学にとって基本的な知識は基礎医学とよばれており、専門的には解剖学、組織・発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物・免疫学、病理学などの分野に分かれています。そこでこれらの学科目を系統的に学修し、生体の構造や機能について幅広い医学知識や実際の歯科治療の知識・技術修得へ向けての基礎知識を身に付けます。

臨床歯科医学領域・社会歯科医学領域

人体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深めます。歯の硬組織や周辺組織に関する疾患や、その欠損と障害、口腔顎顔面領域の軟組織や硬組織に発生する疾患や障害、発育、成長過程に発生する疾患や障害、また高齢者に特有の疾患や障害とその治療法を学び、多様な歯科医療対応を修得します。また、歯科医療の社会における役割と公衆衛生への関与を学び、科学論文の理解に必要な医療統計学の基礎を学修します。さらに講義と実習を組み合わせることで、臨床実習にあたっての、医学・歯科医学の知識と歯科医療の実践との双方を併せ持つ能力を身に付けます。

医療行動科学領域

歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修します。授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけではなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していきます。

臨床実習領域

担当医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと接することで、技術だけにとどまらず、歯科医師としての態度、職業意識を身に付けます。

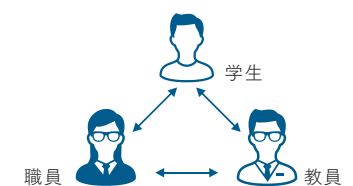


総合医学領域

臨床実習前に、内科学・外科学などを主体にした医学分野を横断的かつ複合的に学び、「オーラルサイエンス(口腔科学)」を実践するための知識・技術を統合型講義にて身に付けます。

PICK UP 学生教育の質を高める「教育・学修総合センター」

松戸歯学部では「教育・学修総合センター」を設置し、学生・教員・職員が三位一体となり、学修を支援する教育システムを構築しています。収集した成績等のデータに基づいて作成した教材を学生に提供し、苦手分野の克服を目指しています。また、全ての試験成績に基づいて分析したデータを学生にフィードバックすることで、学びを確実に進められるきめ細やかなサポートを行っています。



共用試験(CBT・OSCE)とは

「共用試験」は、実際に患者さんと接する際に必要な知識・態度・技能を身に付けているかを判断する試験で、臨床実習前の学修のまとめとして実施されます。コンピュータを用いて知識・問題解決能力を評価するCBTと、態度・診察技能を評価する客観的臨床能力試験OSCEがあり、この試験に合格すると5年次に進級し、臨床実習に進むことができます。

診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験とは

診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(PCC-PX)は、臨床実地試験(CPX)と一斉技能試験(CSX)から成り、臨床実習を通して総合的な臨床能力が身に付いているかを判断する共用試験です。

幅広い教養の知識と 基礎的な歯科医学を総合的・複合的に学ぶ



MESSAGE

しみず あみ
清水 亜美さん

■ 松戸歯学部の学びについて

1年次は一般教養科目がメインで、2年次から基礎医学の座学・実習が始まります。たとえば解剖学ではご遺体を解剖し、筋肉や血管、神経、骨の名称や役割、位置関係など人体の基本構造を立体的に学びました。また、人体に触れることで歯科医師としての責任感や倫理観も育まれました。貴重な経験をさせていただき、感謝しています。3年次からはさらに専門的な知識を

学ぶため、より一層勉学に励んでいきます。キャンパスは自然豊かで勉強にもリフレッシュにも適していますし、同期の皆と切磋琢磨できる良い環境です。先生方と学生の距離が近く、相談しやすいところも魅力だと感じます。将来は地元・千葉で地域の方々から愛されるような歯科医師となり、1人でも多くの患者さんの素敵な笑顔が見たいです。

■ 2年次前学期の時間割

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	解剖学	微生物・免疫学	生化学	解剖学	組織・発生学
2	解剖学	微生物・免疫学	生化学	生理学	組織・発生学
3	医療行動科学2	—	生化学	生理学	組織・発生学
4	医療統計学	—	生化学	生理学	組織・発生学

(令和3年度 参考)



学びの特色

自主創造の基礎

日本大学では、学生一人ひとりが「自主性」と「創造性」に根ざした「将来目標を設定する意識付け」「学ぶ目的の意識付け」ができるような「自主創造型パーソン」の育成を目指し、全学共通初年次教育科目として設置されています。そのために1年次では「自主性」を涵養し、「創造性」への導入を目指した「自主創造の基礎(初年次教育科目)」を展開しています。松戸歯学部で求められる学修技法や将来の良き社会人に繋がる学修のあり方について学びます。

栄養学

健康と栄養の密接な関係について、歯科領域から、食育(様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を修得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること)に対するアプローチを探索し、学びを深めます。



医療行動科学

[1・2年次]
授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していきます。

[3年次：患者－医療関係学／医療人間学]
患者さんと医療者のあるべき関係について深く考え、付属病院における「患者付添実習」を通して自らが取るべき行動指針について学修します。

[4年次：医療面接・歯科臨床診断学／医療コミュニケーション学]
医療面接を通して、医療情報を収集し、最適な医療を行うために必要な診断までのプロセスや患者さんと良好な信頼関係を築くための医療コミュニケーションについて学修します。

障害者歯科学

「障害者歯科学」の専門講座を開設している本学部では、障がいのある患者さんの歯科医療にも力を入れています。摂食嚥下(せつしょくえんげ)機能障害を有する患者さんの全身疾患への理解を深めるとともに、社会歯科学的背景を理解し課題解決のための知識・技術を修得します。



MESSAGE

うちだ たかし
教授 内田 貴之

[歯科総合診療学]

自ら考え、自ら行動を起こせるプロフェッショナルな歯科医師を育てる。

現代の医療では、病気の治療だけでなく、病気をお持ちの方をどのようにケアしていくかが重要になっています。より良い治療を行うためにも、患者さんの心理的・社会的な背景や価値観にも焦点をあてながら、全人的に深く捉えなくてはなりません。松戸歯学部では、患者さんを病気だけではなく人として理解することを、1年次から4年次にかけて「医療行動科学」で学んでいきます。歯科学生としての成長に合わ

せながら、歯科医療の歴史、医療倫理、心理学など多くの知識を段階的に身に付けていくことで、様々な視点から患者さんを見つめる意識を養っていきます。また座学だけではなく、病院見学やグループワークを経験することで、自ら考えて具体的な行動を起こせる、プロフェッショナルな歯科医師になることを目指します。



全国トップクラスの来院患者数を誇る 付属病院での臨床実習



MESSAGE

ほんだ こうすけ
本田 宏輔さん

■ 松戸歯学部の学びについて

5年次では1日の大半が臨床実習になり、座学で学んだ基礎知識を患者さんに応用していきます。カリキュラムは診療参加型臨床実習を中心に構成されていて、知識や技術だけでなく、良き医療人としての心構えも学ぶことができます。臨床実習は毎日が真剣勝負。患者さんと接する中で自身の技術・能力を知り、先生にフィードバックをいただくことで技術向上が望め

ます。松戸歯学部の魅力は、同期だけでなく先輩とも距離が近く、相談がしやすいところ。また部活加入率が高く、文武両道な風土も魅力のひとつです。ここでの学びを糧に、将来は人格的に優れた協調性がある歯科医師になりたいです。疾患ではなく患者さんに向き合う診察で、地域医療・地域保健に貢献することを目指します。

■ 5年次前学期の時間割

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
8:40～9:40	歯科医療の展開				
10:00～12:00	臨床実習				
13:30～16:00	臨床実習				
16:30～17:00	病院内清掃				

(令和3年度 参考)

学びの特色

診療参加型臨床実習(SD診療)

付属病院を受診する患者さんの治療に参加し、歯科医療の実践力を培います。指導医によるマンツーマン形式で行われますが、患者さんの初診時医療面接と応急処置に始まり、診査・検査・情報収集と分析、総合的治療計画の立案、患者さんへの説明まで学生が行います。さらに、指導医の指示を仰ぎながら実際に患者さんの治療を担当し、実体験を通して患者さんとの良好な関係構築のためのコミュニケーション能力と診察技能を高めます。



歯科医学総合講義6

診断・治療・予防までの一貫した診療を実践できる歯科医師を目指して講義を行い、歯科医師国家試験の合格に向けて6年次までに履修した知識・技術を集約します。

課題別臨床実習

6年次に実施され、各診療科で参加型臨床実習を行いながら、新5年次生に基本的臨床能力を指導することで自身の知識・技能・態度を見直し、より専門的な知識・技能・態度を統合的に修得します。



PICK UP

学修スペースについて

松戸歯学部では学修支援の一環として学修スペースの充実を図っています。図書館の他に、学生セミナー室も完備。さらに、学生同士が知識を深めながらグループ学修ができるよう学生食堂も学修スペースとして開放しています。学内では多くの学生がこれらの学修スペースを利用し、毎日の講義・実習の復習や試験に向けて勉学に励んでいます。



MESSAGE

ねぎし しんいち
教授 根岸 慎一

[歯科矯正学]

治療に直結する学びを通じて、矯正歯科治療の魅力を感じて欲しい。

歯科矯正学とは、歯並びを治して身体的・精神的に健康になってもらうための学問です。松戸歯学部では4年次で歯科矯正学の講義と実習を行います。講義では基礎知識を学修し、実習では矯正装置の作成や、ワイヤーを曲げる技術を修得します。5年次からは臨床実習で、患者さんの診断や治療計画の立案を実施。さらに、治療見学を通じて実践的に学んでいます。その他、成人矯正治療では裏側に装置をつける

矯正やマウスピース矯正など、最新の治療も行っています。また、成長期の子どもに増加している「硬い食品をうまく食べられない」という症状を受けて、ガムなどを用いてお口の機能を改善するプログラムも実施しています。ぜひ学生の皆さんには、知識や技術の学修を通じ、矯正歯科治療の魅力を感じていただきたいです。





診療参加型臨床実習を実践する SD(Student Dentist)診療室

松戸歯学部では、5年次の臨床実習においてSD診療室を開設しています。附属病院で実践的に診療マネジメントを行い、SDとしての自覚を持って、治療技術やコミュニケーション能力と知識の向上を図っています。

SD診療とは？

学生が、指導医とともに患者さんのマネジメントを行う“診療参加型”の臨床実習です。

地域歯科医療の中核を担う附属病院で 優れた臨床能力と人格を身に付ける

松戸歯学部の学生が臨床実習を行う場は、最新の歯科用CBCT、MRI、血管造影装置など診療機器や国内初の電子カルテを導入した日本大学松戸歯学部附属病院です。同病院は地域における歯科医療の中核的な役割を担っている上、厚生労働省から歯周病関連の高度先進医療機関として認定を受けています。全国歯学部附属病院の中でもトップクラスの来院者数の附属病院での実習を通して専門知識や技術のみならず、患者さんに対する思いやりや奉仕的精神をしっかりと身に付け、即戦力となる優れた臨床能力と人格を備えた歯科医師の育成を目指します。



脳と口腔の機能に着目した 医療の実践

脳神経外科など医師が在籍していることにより、脳血管疾患などによる要介護状態の患者さんなどに対して、口腔と脳の2つの領域からアプローチすることが可能です。ことに、「口・顔・頭の痛み外来」は首から上の全ての痛みに対応しており、同一の施設内で医師と歯科医師による協働した診療を可能としています。5年次からは医師や歯科医師、患者さんから数多くのことを学ぶとともに、常に新しい医療技術を学ぶ貴重な環境を整備しています。



一口腔単位の 診療マネジメントの実践

SD診療では、学生が患者さんのチーム医療の一員となり、診療の開始から終了までの中心的な役割を果たします。指導医の下、初診の患者さんの医療面接の実施、口腔機能の回復をトータルで考える一口腔単位の治療計画立案、必要な検査の実施、治療の実施と介助、予約マネジメント、症例報告を行います。患者さんと信頼関係を築きながら、総合的な歯科臨床能力を身に付けます。



海外留学から国家試験合格まで万全のサポート体制

海外留学制度

ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ(サマースクール)

日本大学はケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジで25年以上の長期にわたりサマースクールを実施しています。日本大学と共同出資で建設した学寮があり、研修期間中は、寮に滞在しながら、カレッジ生活を体験します。夏季休業期間を利用した3週間(1日約5時間の授業)の集中プログラムです。また、ケンブリッジ大学の学生が専属プログラムアシスタントとしてサポートします。

エリザベスタウン・カレッジ

英語運用能力のレベルアップを目指す授業が展開され、期間中はエリザベスタウン・カレッジ内の寮に滞在します。米国の生活・文化を体験するため、ニューヨーク、ワシントンD.C.といった大都市へのフィールドトリップも企画される予定です。

日本大学大学院海外派遣奨学生

大学院学生を海外に派遣することにより、研究者の育成及び国際交流の進展を図り、本学の発展に資することを目的としています。



歯科医師国家試験サポート

歯科医学総合講義5

5年次後学期に行われる「歯科医学総合講義5」は、臨床実習の前に毎朝行われる講義です。臨床実習で遭遇する症例の問題解決力を養い、国家試験に対応できる知識を修得します。

歯科医学総合講義6

6年次に行われる「歯科医学総合講義6」は、6年間の歯学部教育を総括するまとめ講義です。総合試験は歯科医師国家試験を徹底的に分析し、問題数や合格基準を国家試験水準としています。

国家試験対策委員会・学修サポート委員会

各講座に1人以上の国家試験対策委員会・学修サポート委員会の教員がおり、適切な勉強方法の相談など、いつでも質問ができる体制を整えています。1～6年次クラス担任・国家試験対策委員・学修サポート委員を中心に、面談方針を定め2者面談・3者面談を実施し学修支援をしています。



歯科医師国家試験合格率(新卒者)

第111回 (2017年度)	第112回 (2018年度)	第113回 (2019年度)	第114回 (2020年度)	第115回 (2021年度)
59.8%	77.5%	80.5%	81.8%	55.6%